

# 我教室最近16ヶ年間に於ける 腫瘍の統計的觀察

金沢大学医学部耳鼻咽喉科学教室(主任 松田教授)

助手 加納光雄

*Mitsuo Kano*

助手 波多野精美

*Kiyomi Hatano*

助手 坂井信一

*Shunichi Sakai*

(昭和25年11月16日 受附)

## 第1篇 緒 言

腫瘍特に悪性腫瘍に関する統計的觀察は数多みられる。然し広く耳鼻咽喉科領域に於ける腫瘍全般に亘る統計は少い、殊に我が松田臨牀に於てはまだ試みられていない。この時に当り我々は松田教授の命により我が金沢大学医学部耳鼻咽喉科学教室に於ける腫瘍全般に亘る統計学的觀察を行つた。腫瘍の統計学的一資料となれば幸甚と思う。尙お本統計は病理組織学的診断によるは勿論 総べて臨牀診断によるものであ

り、鼻茸、耳眞珠腫、術後性頬部嚢腫、蝦蟇腫、粉瘤腫等は眞性腫瘍ではないので本統計より除外した。然し單なる甲狀腺腫は眞性腫瘍の中には入れられないが、この患者が耳鼻咽喉科を訪れること多く且統計学的にもいさゝか興味があるので特にこゝに加えた。又「リガ・フェーズ」氏病も病理組織学的に尙お定説のないものであるが、本統計の中に入れた。

## 第2篇 統 計 材 料

本統計的觀察は金沢大学医学部耳鼻咽喉科臨牀に於て昭和7年1月より昭和22年末(1932—1947)に至る16ヶ年間の総取扱い患者41258人中、悪性腫瘍患者339

例、良性腫瘍患者194例、即ち腫瘍患者合計533例を統計材料として用い、尙お必要に応じて他の著者の統計を引用して参考に供した。

## 第3篇 統 計

### 第1章 腫瘍の總括的統計

金大耳鼻科教室16ヶ年間の全腫瘍總数は 533  
例あつて全取扱患者数に対して、約 1.29%に相当し、その内訳は  
悪性腫瘍患者 339 例  
全取扱患者数に対して 0.82%

全腫瘍患者数に対して 63.60%  
良性腫瘍患者 194 例  
全取扱患者数に対して 0.47%  
全腫瘍患者数に対して 36.39%

である。これら腫瘍 533 例の發生頻度は第 1 表

第1表 腫瘍の頻度 (533例)

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

腫瘍名		性別		合計			
		男子	女子	数	悪性腫瘍 総数対%	良性腫瘍 総数対%	全腫瘍 総数対%
悪性腫瘍	癌腫	238	58	296	87.31		55.53
	肉腫	11	5	16	4.71		3.00
	内被細胞腫	6	8	14	4.12		2.62
	悪性リンパ腫	6	7	13	3.83		2.43
良性腫瘍	腺腫	7	63	70		36.08	13.13
	乳頭腫	39	17	56		28.86	10.50
	線維腫	15	4	19		9.79	3.56
	血管腫	6	9	15		7.73	2.81
	血管線維腫(出血性鼻茸)	9	6	15		7.73	2.81
	「リガ・フェーデ」氏病	3	3	6		3.09	1.12
	骨腫	1	2	3		1.54	0.56
	脂肪腫	3	0	3		1.54	0.56
	皮膚様嚢腫	1	2	3		1.54	0.56
	リンパ管腫	0	3	3		1.54	0.56
	神経腫	1	0	1		0.51	0.18
合計		346	187	533			

の如く、悪性腫瘍では癌腫、良性腫瘍では腺腫(甲状腺腫)が大多数を占め、次いで乳頭腫、線

維腫と順次少くなり、僅か数例のものもかなりある。

## 第2章 悪性腫瘍

### 第1節 総括的統計

悪性腫瘍は339例あつて全腫瘍数の63.60%を占め、その中癌腫296例、肉腫16例、内被細胞腫14例、悪性リンパ腫13例で癌腫は悪性腫瘍総数の87.31%を占めておる。性別は癌腫では男女の比4:1、肉腫では2:1で男子の方が多いが、内被細胞腫、悪性リンパ腫では反対に女子の方が僅かに多くなつてゐる。今悪性腫瘍の耳鼻咽喉科領域に於ける発生部位と腫瘍の種類、性別に分つ総括的統計を行えば第2表の如くである。

### 第2節 癌腫

悪性腫瘍の大多数を占める癌腫は296例、全腫瘍数の55.53%、悪性腫瘍総数の87.31%に当り男子238例、女子58例でその比は約4:1である。

### 第1項 耳鼻咽喉科領域に於ける

各器官の癌の発生頻度及順位

癌の発生頻度を各器官別に例数の多い順にならべると第3表の如くであり、上顎、喉頭、食道、舌、咽頭及扁桃腺は耳鼻咽喉科領域に於ける癌の好発部位である。殊に上顎及喉頭は夫々90例、88例ありその差殆んどなく共に癌総数の30%内外を占めている。即ち耳鼻咽喉科領域に於ける癌の3分の1は夫々上顎及喉頭に発生するといふことが出来る。次に各器官の癌の発生頻度を性別にみると何れの器官に於ても男子は女子より遙かに多く、殊に喉頭癌に於てはその差甚だしく男子は女子の約12倍にも相当している。

### 第2項 全身各器官と共に観察せる

場合の耳鼻咽喉科領域各器官の癌の発生頻度及順位

第2表 悪性腫瘍の総括的統計 (339例)  
金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

腫瘍名 性別 患部	癌腫			肉腫			内被細胞腫			悪性淋巴腫			患部別による各腫瘍合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
上顎	62	28	90	3	0	3	1	1	2	0	0	0	66	29	95
喉頭	81	7	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	7	88
食道	29	9	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	9	38
舌	23	8	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	8	31
咽頭及扁桃腺	20	3	23	2	2	4	0	1	1	1	4	5	24	9	33
口腔	11	2	13	2	0	2	5	4	9	1	0	1	19	6	25
外鼻及鼻腔	5	1	6	0	1	1	0	0	0	0	1	1	5	3	8
頸部	3	0	3	3	1	4	0	0	0	2	2	4	7	4	11
頬部	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
耳介	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
外耳道	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2
顎下腺	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	2	2	1	3
前頭部	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
耳下腺部	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
各腫瘍別合計	238	58	296	11	5	16	6	8	14	6	7	13	261	78	339
悪性腫瘍総数に対する割合			87.31			4.71			4.12			3.83			

第3表 耳鼻咽喉科領域に於ける各器官の癌の発生頻度及順位 (296癌)  
金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

順位	男子				女子				男女合計			
	臓器	数	%		臓器	数	%		臓器	数	%	
1	喉頭	81	27.3		上顎	28	9.4		上顎	90	30.4	
2	上顎	62	20.9		食道	9	3.0		喉頭	88	29.7	
3	食道	29	9.7		舌	8	2.7		食道	38	12.8	
4	舌	23	7.7		喉頭	7	2.3		舌	31	10.4	
5	咽頭及扁桃腺	20	6.7		咽頭及扁桃腺	3	1.0		咽頭及扁桃腺	23	7.7	
6	口腔	11	3.7		口腔	2	0.6		口腔	13	4.3	
7	外鼻及鼻腔	5	1.6		外鼻及鼻腔	1	0.3		外鼻及鼻腔	6	2.0	
8	頸部	3	1.0						頸部	3	1.0	
9	頬部	2	0.6						頬部	2	0.6	
10	耳介	1	0.3						耳介	1	0.3	
11	外耳道	1	0.3						外耳道	1	0.3	

長与氏の43教室8病院の臨牀各科総括統計表(第4表)によつてみるに食道, 上顎, 喉頭, 舌等は上位に位し, 口腔, 咽頭は中位に, 他の鼻腔, 頸部, 頬部, 耳介, 外耳道等は下位に位し, その順位も第4表と殆んど一致している。唯食

道が最上位にあるが, これは食道癌患者が耳鼻咽喉科以外に内科, 外科等を訪れるためと思われる。

第3項 耳鼻咽喉科領域に於ける  
296癌の患部, 性, 年齢別統計

第4表 癌の臓器別頻度 (長与氏に依る)

〔臨牀各科総括統計43教室, 8病院〕

順位	男女合計		%	順位	男女合計		%
	臓	器			臓	器	
1	胃		42.1	24	卵	巢	0.2
2	子	宮	20.2	25	鼻	腔	0.1
3	直	腸	5.1	26	胆	管	0.1
4	乳	腺	4.6	27	扁	桃	0.1
5	肝		4.4	28	下	顎	0.1
6	食	道	4.3	29	耳	下	0.1
7	上	顎	3.2	30	嚙	護	0.1
8	喉	頭	2.1	31	辜	丸	0.1
9	舌		2.0	32	鰓	溝	0.1
10	皮		1.7	33	縦	竇	0.09
11	腸		1.6	34	頸	部	0.07
12	肺		1.1	35	唾	腺	0.07
13	陰	茎	1.0	36	鼻		0.07
14	口	腔	0.9	37	耳		0.05
15	腹	膜	0.5	38	膈	下	0.04
16	胆	囊	0.4	39	肋	膜	0.03
17	甲	狀	0.4	40	尿	道	0.02
18	咽	頭	0.4	41	眼		0.02
19	腭		0.4	42	脾		
20	膀	胱	0.3	43	陰	囊	
21	腎		0.3	44	頰		
22	口	唇	0.2	45	肛	門	
23	腔		0.2	46	網	膜	

第5表の如く、罹患率最も高い年齢は男子では51~60歳の92例、次いで61~70歳の72例、41~50歳の41例と順次減少している。然し女子に於ては41~50歳の17例、61~70歳の16例、51~60歳の15例の如く殆んど差がない。即ち女子に於ける最高罹患率を示す年齢は、41~70歳に及ぶ幅の広いものであるということがいえる。(第6表参照)

#### 第4項 耳鼻咽喉科領域に於ける

##### 296 癌の職業別統計

296 癌の簡単な職業別統計を行えば第7表の如くであり、農業一番多く次いで商業である。然し来院患者中農商業者が一番多人数であることから考えれば当然の結果といわなければならない。又癌腫は本表の如く凡ゆる職業の者にみ

られるが、表中僧侶7名中6名及弁護士の名はいずれも喉頭癌患者であり、斯く喉頭癌が声帯を使用すること多きこれら職業の者に多いのはその発生機転と思ひ合せ興味あることと思ふ。

#### 第5項 耳鼻咽喉科領域に於ける

##### 296 癌の患部別主訴発現時より

##### り初診迄の期間の平均

主訴発現時より当科受診迄の期間を以て癌腫の進展速度を推察するに第8表の如く、

6月以内のものは、外耳道癌、咽頭及扁桃腺癌、頰部癌、口腔癌、外鼻及鼻腔癌であり、6月~1年のものは、上顎癌、喉頭癌、食道癌、舌癌、1年以上のものは、耳介癌、頸部癌であり、平均11.56月である。斯く大多数は1年以



第8表 耳鼻咽喉科領域に於ける296癌の患部別

主訴発現時より初診迄の期間の平均

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)・

患部別 期間	上顎癌	喉頭癌	食道癌	舌癌	咽頭及 扁桃腺 癌	口腔癌	外鼻及 鼻腔癌	頸部癌	頬部癌	耳介癌	外耳 道癌	総平均
月 数	6.58	9.15	9.22	9.99	3.27	4.95	5.25	69.3	4.5	15.0	1.0	11.56

内であり癌腫の進展は極めて速かである。

然し各癌腫についての特別の意義は認められない。

## 第6項 各患部癌統計

## (イ) 上顎癌

耳鼻咽喉科領域の癌腫中最も多く、90例を占め癌腫総数296例の30.4%に当る。

性、年齢別にみると第9表の如く、年齢51~60歳に於て罹患率最も高く、最少年齢男27歳、女34歳、最高年齢男75歳、女81歳、平均年齢男55.25歳、女48.51歳、男女平均年齢53.13歳、男女の比2.21:1である。これを諸家の統計と共にみると第10表の如く男子に断然多い。

患側別にみると第11表の如く、男女共に右の

第9表 性、年齢別

年齢 性別	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81以上	計
男	1	6	16	16	20	3	0	62
女	0	7	8	10	2	0	1	28
計	1	13	24	26	22	3	1	90

第10表 性 別

性 別	男 (%)	女 (%)	計
人 名			
宮 原	27 (90.0)	3 (10.0)	30
久 保	107 (72.8)	40 (27.2)	147
山 川	58 (60.4)	38 (39.6)	96
腰 野	33 (60.0)	22 (40.0)	55
安 積	49 (59.6)	33 (40.4)	82
山 口	39 (57.3)	29 (42.7)	68
Öhngren	101 (54.0)	86 (46.0)	187
土 井	109 (68.1)	51 (31.9)	160
山 本	24 (72.7)	9 (27.3)	33
飯 田	21 (56.7)	16 (43.3)	37
加納, 波多野, 坂井	62 (68.8)	28 (31.2)	90

方が多い。又両側にみた例はない。諸家の統計では、第12表の如くその差はまちまちで絶対的のものではない。

職業別にみると第13表の通りである。

嗜好的關係をみると第14表の通りである。

## 遺伝的關係

遺伝的關係のあるもの4例

遺伝的關係のないもの86例

第11表 患 側

患側 性別	左	右	両側	計
男	28	34	0	62
女	9	19	0	28
計	37	53	0	90

第13表 職 業 別

性 別 職 業	男	女	計
農 業	18	16	34
商 業	18	1	19
無 職	11	6	17
官吏及会社員	5	3	8
漁 業	4	2	6
勞 務 者	5	0	5
医 師	1	0	1
計	62	28	90

第12表 患 側 (諸家の統計)

患 側 人 名	左	右	両側	計
宮 原	19	11	0	30
山 口	34	32	0	66
Öhngren	56	50	10	116
土 井	72	88	0	160
山 本	18	13	2	33
飯 田	16	21	0	37
加納, 波多野, 坂井	37	53	0	90

第14表 嗜好的關係

	-	+	++	+++
煙 草	65	23	2	0
酒	68	19	3	0

占居部位(手術患者40例について)は第15表の通りである。

即ち骨欠損部を以て占居部位と推定したのである。今腫瘍進展し同時に2ヶ所以上の骨欠損部を有し何れが原發部位か不明のものを除き、

比較的原發部位明瞭と思われるものについてみるに 齒槽突起型7例で一番多く、次いで鼻側壁、及上顎の側、後、下、眼窩壁、犬齒窩並にこれらの移行部位であり、篩骨蜂窩型は一番少い。

第15表 占 居 部 位 (手術患者40例に就て)

骨 欠 損 部	数	骨 欠 損 部	数	骨 欠 損 部	数
齒 槽 突 起	7	後壁の大部分及眼窩壁	2	犬齒窩, 側壁, 後壁, 前上壁, 内壁	1
鼻 側 壁	4	側 後 下 壁	1	犬齒窩, 眼窩壁, 後壁, 内壁, 齒槽突起	1
側 壁	2	犬 齒 窩 及 側 壁	1	眼窩壁, 後壁, 篩骨蜂窩の眼窩壁	1
側 後 壁	2	鼻 側 壁 及 齒 槽 突 起	1	犬 齒 窩, 眼 窩 側, 外 側 壁	1
後 下 壁	2	犬齒窩, 眼窩壁, 後壁, 鼻側壁	1	犬 齒 窩 及 齒 槽 突 起	1
犬齒窩及下壁	2	側 壁, 後 壁, 下 壁, 內 壁	1	側 壁 及 前 上 壁	1
側後壁, 眼窩壁	3	篩 骨 蜂 窩	1	齒槽突起の大部分後壁及篩骨蜂窩	1
側壁及眼窩壁	2	眼窩壁, 後壁, 側壁, 篩骨蜂窩	1		

主訴の種類及初診迄の期間

主訴の種類は第16表の如く多種多様であるが、何れも大体に於て組合せが異なるのみでそのもととなるべきものは自らきまつている。その中最も多いのは、頬部腫脹、鼻閉、鼻漏、血性鼻漏、頬部疼痛、偏頭痛等である。次に自覚

症状発現より当科受診迄の期間は3ヶ月、次いで2ヶ月が圧倒的に多く他は遙かに少い。今この期間を以て腫瘍の進展速度を推察すればこの期間が短ければ短い程早期診断が徹底しているということが出来る。

第16表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴	性別	月数										不明	計													
		10T	20T	1M	1.5M	2M	2.5M	3M	3.5M	4M	5M				6M	7M	8M	9M	10M	11M	1J	2J	3J	4J	5J	10J
頬部腫脹	♂ ♀		2	1		3	1		1		1			1		1								3	14	15
鼻閉	♂ ♀		1	1		1					1							1							4	9
鼻漏	♂ ♀			1	1													1	1						4	8
頬部腫脹 鼻漏鼻閉	♂ ♀					2			1	1		1					1			1			1	8	10	
鼻漏	♂ ♀			1		1		1															2	2	5	
血液を混 ざる鼻漏	♂ ♀			2		1					1				1			1						5	6	
鼻漏鼻閉 鼻出血	♂ ♀					1			1					1		1								3	4	
頬部疼痛	♂ ♀		1		1	1	1															1	4	2	6	
鼻閉, 鼻 出血	♂ ♀						1		1													1	3	0	3	
上顎洞炎の 手術後の 頬部腫脹	♂ ♀								1									1						2	2	
鼻閉, 血 性鼻漏頬 部腫脹	♂ ♀				1	1																		2	2	
鼻出血, 頬部腫脹	♂ ♀						2																	2	2	
鼻閉, 偏 頭痛	♂ ♀				1	1	1									1								1	4	
頭眼痛	♂ ♀		1															1						2	2	
硬口蓋腫 脹	♂ ♀			1														1						2	2	
頬部シビ レ感鼻閉 視力障害	♂ ♀				1																			1	1	
頬部腫脹 眼球突出	♂ ♀					1																		0	1	
鼻背腫脹	♂ ♀										1													0	1	

頰部疼痛 牙関緊急	♂ ♀																				0 1	1			
頰部シビレ 感頭痛 口蓋痛	♂ ♀																					0 1	1		
上歯痛鼻閉, 血性鼻漏	♂ ♀																					1 0	1		
頭痛 頰部疼痛	♂ ♀																					0 1	1		
歯齦腫脹 及疼痛	♂ ♀	1																				2 0	2		
眼球突出 鼻背腫脹	♂ ♀																					0 1	1		
計		1	4	8	3	16	2	17	2	3	3	3	3	0	2	1	1	4	6	1	1	0	1	8	90
主訴發生より 初診迄の 総平均月数		6.58月																							

(ロ) 喉頭癌  
喉頭癌は88例あつて上顎癌に次いで多く癌腫の29.7%である。  
性、年齢別にみると第17表の如く、年齢61~

70歳に於て罹患率最も高く、次いで51~60歳である。最少年齢男35歳、女42歳、最高年齢男79歳、女66歳、平均年齢男59.33歳、女57.42歳、男女平均年齢59.18歳、男女の比11.6:1であり

第17表 性、年齢別

年齢	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	計
性別						
男	2	12	29	31	7	81
女	0	1	3	3	0	7
合計	2	13	32	34	7	88

他癌腫に比し甚だしく男子に多い。

職業別にみると

第18表の如くで他の癌腫の職業別統計と異なり、僧侶、弁護士がみられる。その発生機転より考え興味あることと思ふ。

嗜好的關係についてみるに、第19表の如く、他部位の癌腫では(卅)は全然みられなかつたが、喉頭癌では煙草、酒共に1例づゝみられ、且(卅)も他癌より多い。即ち煙草、酒が他癌に比し關係があるということが出来る。

遺伝的關係

遺伝的關係なきもの 83例

第18表 職業別

性別	男	女	計
職業			
農 業	23	2	25
官吏及社員	17	0	17
齒 業	12	3	15
無 職	11	1	12
僧 侶	6	0	6
勞 務 者	6	0	6
漁 業	3	1	4
医 師	2	0	2
弁 護 士	1	0	1
計	81	7	88

遺伝的關係のあるもの 5例  
占居部位

占居部位は、第20表の如く、声帯、仮声帯の  
侵された内癌は外癌に比し稍多し。

第19表 嗜好的關係

	-	+	++	+++
煙草	44	36	7	1
酒	54	30	3	1

第20表 占居部位

占居部位 数及%	内癌	外癌	明かに内外 共に侵され 夫れか不明	不明
数	34	30	16	8
%	38.63	32.96	18.18	9.09

主訴の種類及初診迄の期間. 第21表の如く,  
主訴では嘔声, 次いで疼痛が基をなしている。

又自覚症状発現より当科受診迄の期間は1~2  
ヶ月が一番多く, 次いで1年である。

第21表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴	月		内										外				不明	計	計						
	10T	20T	1M	2M	3M	4M	5M	6M	7M	8M	9M	10M	11M	1J	1J	2M				1J	4M	2J	10M	5J	7J
嘔声	内	1		3	1		1	1	2	2	2	1	2		5	1		1	1					4	28
	外																						1	6	45
	内外		1	3	3							1										1	1	10	
	不明			1																				1	1
嘔声+ 嚔下痛	内			1	3	1				1			1			1								1	7
	外																								2
	内外			1	3	1			1										1					1	11
嘔声+ 咽頭痛	内				1				1												1				3
	外																								1
	内外				1				1																4
嘔声+ 呼吸困難	内																								1
	外																								1
	内外																								2
嘔声+ 頭 匾脹感	内			1																					0
	外																								1
	内外			1																					1
嘔声+ 咽頭出 血嚔下 困難	内																								0
	外																								1
	内外																								1
嘔声+ 咳嗽咯 痰	内																								1
	外																								0
	内外																								0
不明	内																								1
	外																								0
	内外																								0
計	内																								1
	外																								0
	内外																								0
計	内																								1
	外																								0
	内外																								0

嗄声+前頸部腫脹	内外 内外 不明									1												0 1 0 1	2	
咽頭痛	内外 内外 不明									1											1		1 2 1 1	5
嚥下痛	内外 内外 不明			2	1					1	1												0 5 1 0	6
喉頭痛	内外 内外 不明																				1		0 1 2 0	3
喘鳴呼吸困難	内外 内外 不明																					1	0 0 1 0	1
喉頭異物感	内外 内外 不明																				1		0 1 0 0	1
嚥下困難前頸部腫瘍	内外 内外 不明										1										1		0 2 0 0	2
合計		1	1	12	11	2	4	7	7	6	3	3	5	0	10	2	1	3	1	2	0	1	6	88
主訴発生より初診迄の総平均月数		9.15月																						

(ハ) 食道癌

食道癌は38例あり、上顎癌、喉頭痛に次いで多く癌腫総数の12.8%である。

性、年齢別にみると第22表の如く、年齢51~

60歳に罹患率最も高く、次いで61~70歳である。最少年齢男40歳、女44歳、最高年齢男73歳、女64歳、平均年齢男57.96歳、女54.44歳、男女平均年齢57.13歳、男女の比は3.2:1である。

第22表 性、年齢別

性別	年齢					計
	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	
男	1	3	15	8	2	29
女	0	4	1	4	0	9
合計	1	7	16	12	2	38

職業別にみると

第23表の如く、特別なものはみられない。

遺伝的關係

遺伝的關係なきもの 36例

遺伝的關係のあるもの 2例

嗜好的關係

第23表 職業別

性別		男	女	計
農	業	7	5	12
商	業	8	0	8
官吏及	社員	6	0	6
無	職	2	4	6
勞	務者	4	0	4
漁	業	2	0	2
計		29	9	38

第24表の如くであり、喉頭癌に次いで飲酒家、喫煙家に多くみられる。斯くの如く食道癌患者に飲酒家、喫煙家の多いことは諸家の統計と一致している。

第24表 嗜好的關係

	-	+	++	+++
煙草	20	13	5	0
酒	25	9	4	0

占居部位

癌腫占居部位觀察上食道鏡下に上齒列より20糎迄、21~30糎、31糎以上と三大別し各上部、中部、下部とすれば、その占居部位は第25表の

如くなり、上部最も多く下部は極めて少い。

第25表 占居部位

部位		上部	中部	下部	不明
性別	男	11	12	2	4
	女	6	1	0	2
合計		17	13	2	6

これを諸家の統計と比較すると第26表の如く、上部に多いのは我々の統計と腰野の統計のみであり、又我々の統計の如く下部が最も少いのは他の統計ではみられない。恐らくこれは食道下部癌患者が内科、外科等を訪れることの方が多いためではないかと思われる。

第26表 占居部位 (諸家の統計)

発表者	上部	中部	下部	不明	例数
石橋	9	24	18	5	56
鈴木	6	15	4		25
長与	7	12	11		30
古閑, 飯沼	5	7	5	6	23
腰野	20	7	10		37
加納, 波多野, 坂井	17	13	2	6	38

男女別にみると第25表の如くである。食道上部癌は男子に比較して断然女子に多いことは一般の認むるところであるが、本統計では女子は男子の約半数に過ぎなかつた。

主訴の種類及初診迄の期間

第27表の如く；必発する症状である嚥下障碍が最も多く、次いで疼痛、唾液過多等である。初診迄の期間は6ヶ月以内が3/5を占めている。

第27表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴別		月数																	不明	合計					
		17T	21T	1M	40T	1.5M	2M	3M	4M	5M	5.5M	6M	6.5M	7M	8M	9M	10M	11M			1J	1.5J	1.8J	3J	10J
嚥下障碍	♂	1		1	1		1	1	1				1	2						1		1		11	18
	♀			1				1		1					1							1	2	7	
食物通過困難	♂							2			1												2	5	5
	♀																						0	0	

咽頭痛	♂		1				1													1	3	4		
咽頭痛	♀			1																	1	1	2	
咽頭痛 嚥下困難	♂								1													2	2	
咽頭痛 嚥下困難	♀																					0	0	
嚥下困難	♂				1																	2	2	
嚥下困難	♀																					0	0	
呼吸困難 頸部腫瘍 形成	♂				1																	1	1	
呼吸困難 頸部腫瘍 形成	♀																					0	0	
攝食時 食道部疼痛	♂		1																			1	1	
攝食時 食道部疼痛	♀																					0	0	
咽頭狭窄 感乾燥感 搔痒感	♂																			1		1	1	
咽頭狭窄 感乾燥感 搔痒感	♀																					0	0	
嚥下障害 喉頭痛	♂		1																			2	2	
嚥下障害 喉頭痛	♀																					0	0	
異物感 唾液過多	♂																					0	1	
異物感 唾液過多	♀					1																1	1	
咽頭及食道 膨満感	♂					1																1	1	
咽頭及食道 膨満感	♀																					0	0	
計		1	1	4	1	1	4	5	2	1	2	0	1	3	1	1	0	0	1	1	1	1	5	38
主訴発生日より 初診迄の総 平均月数		9.22月																						

(二) 舌 癌

舌癌は31例あり、癌腫総数の10.4%に相当する。  
性、年齢別にみると第28表の通りである。40

歳代、50歳代各10例あり、最高罹患率を示す。  
最少年齢男27歳、女43歳、最高年齢男69歳、女69歳、平均年齢男51歳、女54歳、男女平均年齢51.77歳、男女の比は3:1である。

第28表 性、年齢別

年 齢	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	計
性 別						
男	2	2	6	9	4	23
女	0	0	4	1	3	8
合 計	2	2	10	10	7	31

職業別にみると

第29表の通りであり、特別のものはみられない。

嗜好的関係

第30表の如く、舌癌患者に特に喫煙者、飲酒家が多いというような関係はみられない。

遺伝的關係

遺伝的關係なきもの 29例  
遺伝的關係のあるもの 2例

占居部位

第31表の如く、舌中間部で右縁が過半数を占めている。

第29表 職 業 別

性 別		男	女	計
職 業				
農 業		8	3	11
商 業		7	3	10
官吏及社員		3	1	4
無 職		2	1	3
漁 業		1	0	1
勞 務 者		2	0	2
計		23	8	31

第30表 嗜好的關係

	-	+	++	+++
煙 草	15	13	3	0
酒	18	13	0	0

第31表 占 居 部 位

部 位		舌 尖 部		舌 中 間 部			舌根部	計
性 別		表 面	裏 面	右 緣	左 緣	左緣より舌底		
		男		3	1	13	4	0
女		1	0	3	2	1	1	8
計		4	1	16	6	1	3	31

主訴の種類及初診迄の期間

第32表の通りである。

第32表 主訴の種類及初診迄の期間

主 訴	性 別	月 数																不 明	計		
		5T	10T	1M	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1J	2J	3J			5J	7J
舌潰瘍	♂ ♀				1	1					2		1						1	6	7
舌疼痛	♂ ♀		1	1	1			1	1			1		1					1	8	10
舌腫瘍	♂ ♀		1			1	1									1			1	5	8
咽頭痛	♂ ♀	1																		0	1
嚥下痛	♂ ♀									1										1	1
発語障碍 舌痛	♂ ♀									1										0	1
舌痛及腫 脹	♂ ♀																1			1	1
発語障碍 腫瘍	♂ ♀										1									1	1



第37表の如く咽頭痛一番多く、その他多種多様である。初診迄の期間は6ヶ月迄が91%である。

第37表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴	性別	月数												不明	計		
		1M	1.5M	2	3	3.5	4	5	6	7	8	9	10			1J	
咽頭痛	♂ ♀	2		1		1			1							5 0	5
嚥下嚥	♂ ♀	1		1												1 1	2
咽頭異物感	♂ ♀				1											1 0	1
牙關緊急 硬口蓋潰瘍	♂ ♀				1											1 0	1
難聴、頭痛	♂ ♀								1							1 0	1
鼻閉、鼻出血、 頸痛	♂ ♀	1														0 1	1
咽頭不快感	♂ ♀				1											1 0	1
下顎部腫瘍	♂ ♀								1							1 0	1
耳下部腫脹	♂ ♀												1			1 0	1
嚥声、嚥下痛汚い、 鼻漏	♂ ♀	1														1 0	1
咽頭痛 嚥下困難	♂ ♀	1														0 1	1
両側頸部腫脹	♂ ♀				1											1 0	1
歯齦腫脹	♂ ♀			1												1 0	1
嚥下時下顎部疼痛	♂ ♀				1											1 0	1
嚥下障碍 咽頭異物感	♂ ♀							1								1 0	1
潰瘍	♂ ♀							1								1 0	1

嗄声、惡臭の鼻漏、嘔下痛	♂	1														1	1
咽喉腫脹疼痛	♀															1	1
計		6	1	3	5	1	0	2	3	0	0	0	0	1	1		23
主訴発生日より初診迄の総平均月数	3.27月																

(へ) 口腔癌 年齢 51~60 歳, 61~70 歳各 4 例で罹患率最も高く、口腔癌は13例あり、癌腫総数の 4.3%に当る。性、年齢別にみると第38表の如くであり、年

第38表 性、年齢別

年齢	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	計
性別							
男	1	2	1	4	3	0	11
女	0	0	0	0	1	1	2
計	1	2	1	4	4	1	13

均年齢 55.61歳, 男女の比 5.5:1 である。

職業別にみると

第39表の如く、特別のものはみられない。

遺伝的關係

第39表 職業別

性別	男	女	計
職業			
農業	3	0	3
商業	2	1	3
官吏及会社員	3	0	3
無職	1	1	2
漁業	1	0	1
土工	1	0	1
計	11	2	13

遺伝的關係なきもの 11例

遺伝的關係のあるもの 2例

嗜好的關係は第40表の通りである。

第40表 嗜好的關係

	-	+	++	+++
煙草	9	4	0	0
酒	10	3	0	0

占居部位

第41表の如く、硬口蓋一番多く46%を占めている。

主訴の種類及初診迄の期間

第42表の通りである。

第41表 占居部位

部位	硬口蓋	軟口蓋	口腔底	頬嚢部	下顎歯齦部	計
性別						
男	5	1	2	1	2	11
女	1	1	0	0	0	2
計	6	2	2	1	2	13

第42表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴	性別	月数										計	
		1	2	3	4	5	6.5	8	1J3M	不明			
潰瘍	♂ ♀		1		1	1						3 0	3
硬口蓋痛	♂ ♀						1					0 1	1
嚥下痛	♂ ♀			1								1 0	1
咽頭痛	♂ ♀							1				1 0	1
嚥下障碍 流涎	♂ ♀			1								1 0	1
口腔異物 感	♂ ♀									1		0 1	1
硬口蓋腫 脹	♂ ♀		1								1	2 0	2
硬口蓋及 上歯齦腫 脹	♂ ♀	1										1 0	1
開口及嚥 下困難	♂ ♀										1	1 0	1
下顎歯齦 出血	♂ ♀										1	1 0	1
計		1	2	2	1	1	1	1	1	1	3		13
主訴発生日より 初診迄の総 平均月数		4.95月											

(ト) 鼻腔癌

鼻腔癌は6例あり、癌腫総数の2%に当る。

第43表 鼻 腔 癌

名 前	年齢	性別	職 業	遺伝	主 訴	発 生 部 位	主訴発 生より 初診迄	煙草	酒
笠○儀○郎	66	♂	なし	(-)	鼻 側 腫 脹	中 鼻 道	2M	+	-
三○政○	59	♂	植木職	(-)	鼻 閉	鼻 腔	0.5M	+	-
西○作○	69	♂	農	(-)	鼻 出 血	鼻 腔	5M	+	+
山○り○	62	♀	ラヂオ 商	(-)	鼻 漏	鼻 腔	1J	-	-
森○短○	39	♂	農	(-)	鼻 出 血	右 鼻 腔	10M	+	-
道○清○郎	52	♂	農	(-)	鼻 漏, 鼻 閉	右 中 鼻 道	2M	-	+

第43表の通りである。

(チ) 頸部癌

第44表 頸部癌

名前	年齢	性別	職業	遺伝	主訴	発生部位	主訴発生より初診迄	煙草	酒
西○次○	56	♂	農	(-)	左頸部腫瘍	左側頸部淋巴腺	4M	+	+
法○了○	64	♂	僧侶	(-)	頸部腫脹	頸部	2J	-	-
森○	37	♂	農	(-)	耳介下部腫瘍潰瘍	右耳下部	15J	+	-

(リ) 頬部癌

第45表 頬部癌

名前	年齢	性別	職業	遺伝	主訴	発生部位	月数	煙草	酒
有○豊○	42	♂	焼万頭	(-)	右顎下部腫脹	右臼歯に対する頬粘膜	3M	+	-
浜○喜○郎	62	♂	なし	(-)	右頬部腫脹	右頬粘膜	6M	+	+

(ヌ) 耳介癌

第46表 耳介癌

名前	年齢	性別	職業	遺伝	主訴	発生部位	月数	煙草	酒
吉○清○	52	♂	商	(-)	耳介内腫瘍	耳介内	1J 3M	-	-

(ル) 外耳道癌

第47表 外耳道癌

名前	年齢	性別	職業	遺伝	主訴	発生部位	月数	煙草	酒
金○壽○	33	♂	工員	(-)	左耳痛	左外耳道	1M	-	-

第3節 肉腫

肉腫は癌腫に比べて甚だ少く、16例で全悪性腫瘍の4.71%に過ぎない。

第1項 耳鼻咽喉科領域に於ける肉腫

(16例)の患部、性、年齢別統計

第48表の如く、患部別にみると咽頭及扁桃腺、頸部各4例で一番多く、次いで上顎4例、口腔2例、鼻腔、下顎角及顎下腺、前頭部各1例である。性別では、男子11例、女子5例で、男女の比2.2:1である。年齢との関係は10歳代

と20歳代各4例で一番多く50%を占めている。

第2項 職業別統計

第49表の如く、特別のものはみられない。

第3項 遺伝的關係

遺伝的關係なきもの 15例

遺伝的關係のあるもの 1例

第4項 嗜好的關係

第50表の如く、喫煙者、飲酒家は非常に少い、これは発生年齢が11~30歳に一番多いことにも關係していると思われる。

第48表 耳鼻咽喉科領域に於ける肉腫 (16例) の患部, 性, 年齢別統計

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

原発臓器 性別 年齢	上顎		咽扁桃腺		口腔		鼻腔		頸部		下顎角及腺		前頭部		年齢別肉腫例数		合計				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男		女			
0~10										1		1				1	0	1			
11~20	2	0	2			1		1	1							3	1	4			
21~30	1		1	1	1					1	1	1	0	1		2	2	4			
31~40				2	2	1		1								1	2	3			
41~50				1	1											1	0	1			
51~60										1	1		1		1	2	0	2			
61~70										1	1				1	0	0	1			
71~80																					
81以上																					
合計	3	0	3	2	2	4	2	0	2	0	1	1	3	1	4	0	1	1	11	5	16

O. Osteosarcom L. Lymphsarcom R. Reticulosarcom F. Fibrosarcom

第49表 職業別

性別	男	女	計
農業	5	3	8
官吏及会社員学生	2	1	3
商業	2	0	2
勞務者	1	1	2
無職	1	0	1
計	11	5	16

第50表 嗜好的關係

	-	+	++	+++
煙草	14	1	1	0
酒	14	2	0	0

第5項 主訴の種類及初診迄の期間

主訴の種類は発生部位によつて異なるが、頬部腫脹、咽頭痛、頸部腫脹等が多い。(第51表参照)

第51表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴	性別	月数										不明	計		
		5T	20T	1M	2	3.5	4	5	6	10.5M					
頬部腫脹	♂ ♀		2						1				1	3 1	4
咽頭痛	♂ ♀			1	1		1							1 2	3
頸部腫脹	♂ ♀			1								1	1	3 0	3
嚥声頸部腫脹	♂ ♀							1						0 1	1
下顎角腫脹	♂ ♀	1												0 1	1

咽頭異物感	♂ ♀					1					1	1
鼻閉 眼球突出	♂ ♀					1					1	1
難聴	♂ ♀									1	1	1
軟口蓋腫脹	♂ ♀									1	1	1
計		1	2	2	1	1	2	1	1	1	4	16
主訴発生日より初診迄の総平均月数		3.21月										

初診迄の期間は殆んどが6ヶ月以内で91%に及んでいる。

**第4節 内被細胞腫**

内被細胞腫は14例で全悪性腫瘍の4.12%に過ぎない。

**第1項 耳鼻咽喉科領域に於ける**

内被細胞腫(14例)の患部、

性、年齢別統計

第52表の如く、軟口蓋一番多く50%を占めており、男女略々同数なるも女性稍々多く、年齢

第52表 耳鼻咽喉科領域に於ける内被細胞腫(14例)の患部、性、年齢別統計

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

原発臓器 性別 年齢	軟口蓋			硬口蓋			軟及硬口蓋			耳下腺部			鼻咽腔			上齶骨蜂巢			外耳道			患部別による各種瘍合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0~10																								
11~20															1	1	2				1	1	2	
21~30																								
31~40								1	1					1	1						0	2	2	
41~50	1	1	2							1	1									1	1	3	4	
51~60	1	1	2																		1	1	2	
61~70	3	0	3		1	1															3	1	4	
71~80																								
81以上																								
合計	5	2	7	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	2	0	1	1	6	8	14

は40歳代と60歳代各4例で一番多い。

**第2項 職業別統計**

第53表の通りである。

**第3項 遺伝的關係**

遺伝的關係は全部の例に於て認めない。

**第4項 嗜好的關係**

第54表の如く、喫煙者、飲酒家は極めて少い。

第53表 職業別

性別 職業	性別		計
	男	女	
商業	3	5	8
農業	3	2	5
無職	0	1	1
合計	6	8	14

第54表 嗜好的關係

	—	+	++	+++
煙草	12	2	0	0
酒	12	2	0	0

第5項 主訴の種類及初診迄の期間

第55表の如く、発生部位により異なるが、一番多いのは腫瘍形成、次いで潰瘍、鼻出血等である。初診迄の期間は6ヶ月迄50%であり、総平均は19.35月であり非常に長い。

第55表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴	性別	月数								不明	計	
		10T	2M	5M	6M	1J	3J	4J	5J			
潰瘍	♂ ♀				1		1				1 1	2
腫瘍	♂ ♀		1	1					1	1	4 0	4
硬口蓋腫脹呼吸困難	♂ ♀									1	0 1	1
鼻出血	♂ ♀					1				1	0 2	2
耳下部腫脹	♂ ♀					1					0 1	1
咽頭痛鼻漏	♂ ♀			1							0 1	1
嚥下困難	♂ ♀	1									0 1	1
下眼窩縁内眦部圧痛	♂ ♀			1							1 0	1
不明	♂ ♀	1									0 1	1
計		2	1	3	1	2	1	1	2	1		14
主訴発生日より初診迄の総平均月数	19.35月											

第5節 悪性淋巴瘤

悪性淋巴瘤は13例で悪性腫瘍総数の3.83%に当る。

第1項 耳鼻咽喉科領域に於ける

悪性淋巴瘤(13例)の患部、性、年齢別統計

第56表の如く、咽頭及扁桃腺一番多く5例、頸部4例、顎下腺2例、鼻腔、口腔各1例とな

つており、男女略々同数なるも女性稍々多く、年齢は41~50歳が一番多い。

第2項 職業別統計

第57表の如く、特別のものはみられない。

第3項 遺伝的關係

遺伝的關係なきもの 12例  
 遺伝的關係のあるもの 1例

第4項 嗜好的關係

第56表 耳鼻咽喉科領域に於ける悪性淋巴瘤 (13例) の患部, 性, 年齢別統計  
金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

原発臓器 性別 年齢	咽及扁桃腺			頸部			顎下腺			鼻腔			口腔			年齢別悪性淋巴瘤例総数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0~10																		
11~20	1	1	2													1	1	2
21~30																		
31~40		1	1	1		1	1		1						2	1	3	
41~50		1	1	1	1	2						1		1	2	2	4	
51~60							1		1		1	1			1	1	2	
61~70					1	1										1	1	
71~80		1	1													1	1	
81以上																		
合計	1	4	5	2	2	4	2	0	2	0	1	1	1	0	1	6	7	13

第57表 職業別

性別	男	女	計
職業			
農業	2	2	4
商業	2	2	4
漁業	1	1	2
官吏	1	1	2
無職	0	1	1
合計	6	7	13

第58表 嗜好的関係

	-	+	++	+++
煙草	12	1	0	0
酒	11	2	0	0

第58表の如く、殆んどが、煙草、酒を嗜まない者である。

第5項 主訴の種類及初診迄の期間

第59表 主訴の種類及初診迄の期間

主訴	性別	月数								不明	計		
		10T	1M	2M	3M	4M	10M	3J					
腫脹	♂	1				1	1				1	3	7
	♀		2	1								4	
咽頭痛	♂				1							1	1
	♀											0	
鼻閉	♂											1	1
	♀		1									1	
鼻閉, 鼻漏	♂									1		1	1
	♀											0	
鼻下困難	♂										1	1	1
	♀											0	
咽頭痛	♂				1							1	1
頸部腫脹	♀											0	
不明	♂										1	1	1
	♀											1	
合計		1	3	1	2	1	1	1	1	3			13
主訴の発生日より初診迄の総平均月数		6.13月											

第59表にみられる如く、主訴では腫瘍が一番多く、初診迄の期間は4ヶ月に80%である。

第3章 良性腫瘍

第1節 総括的統計

良性腫瘍は194例あつて、全腫瘍数533例の36.39%に当る。良性腫瘍中甲状腺腫最も多く70例、次に乳嚙腫56例、線維腫19例、血管腫、血管線維腫各15例の順に多く、他はすつと少い。(第60表参照)

第2節 各腫瘍

・別統計

第1項 甲状腺腫

良性腫瘍194例中、甲状腺腫70例で36.08%に当る。性、年齢別にみると第61表の如く、70例中63例迄が女子で男子は残り僅か7例である。この63例の女子甲状腺について年齢的關係をみると第62表の如く思春期と更年期に二つの山がみられる。これは女子生殖機能の変調と甲状腺腫とが密接な關係にあることを示すものと思われる。

第2項 乳嚙腫

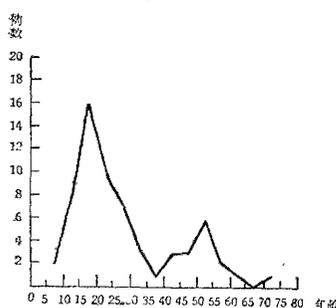
第60表 良性腫瘍(194)の總括的統計 (1932-1947)

腫瘍名	甲状腺腫		乳嚙腫		線維腫		血管腫		血管線維腫		管		リガ、フエ		骨腫		脂肪腫		皮膚瘻		淋巴管腫		神經腫		患部別による各腫瘍合計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
甲	7	63																							7	63		
喉			11	6	3	1	4	1	4	1	4															14	6	
咽			23	4	1	1	3	1	4	5	4															28	4	
舌			3	6	2	1	3	1	5	3	4															9	18	
外			1	1	1	1	3	3	3	9	6															9	10	
鼻			1	1	1	1	1	1	2	1	1															1	0	
食			1	1	1	1	1	1	2	1	1															2	3	
顎					6	2	6	2	6	2	6																6	0
鼻					2	1	2	1	2	1	1																2	1
上					1	1	1	1	1	1	1																2	1
頰					1	1	1	1	1	1	1																2	1
耳					1	1	1	1	1	1	1																1	2
頭					1	1	1	1	1	1	1																0	1
下					1	1	1	1	1	1	1																1	0
耳					1	1	1	1	1	1	1																1	0
外					1	1	1	1	1	1	1																1	0
前					1	1	1	1	1	1	1																1	0
各腫瘍別による合計	7	63	39	17	56	15	4	19	6	9	15	9	6	15	3	6	1	2	3	0	3	1	0	1	85	109		
良性腫瘍總数に対する割合	36.08%		28.86%		9.79%		7.73%		7.73%		7.73%		7.73%		3.09%		1.56%		1.56%		1.56%		0.51%		1.56%	1.56%		

第61表 甲状腺腫の性、年齢別統計  
金大耳鼻咽喉科 (1932—1947)

年齢	性別		計
	男	女	
6~10		2	2
11~15	2	8	10
16~20		16	16
21~25		10	10
26~30		7	7
31~35		3	3
36~40	2	1	3
41~45	2	3	5
46~50	1	3	4
51~55		6	6
56~60		2	2
61~65		1	1
66~70			0
71~75		1	1
合計	7	63	70

第62表 女子甲状腺腫と年齢との関係  
金大耳鼻咽喉科(1932—1947)



性、年齢別統計

乳嚢腫は甲状腺腫に次いで多く56例で、良性腫瘍総数の28.86%を占め、性、年齢別にみると第63表の如く男子に多く女子の2.3倍である。年齢的には若年者に多く20歳以下が58%を占めている。

第63表 乳嚢腫の性、年齢別統計 (56例)  
金大耳鼻咽喉科 (1932—1947)

性別	年齢								計
	0~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	
男	5	19	3	1	5(1)	1	2(1)	3(1)	39
女	5	4	1	2	3(1)	2	0	0	17
計	10	23	4	3	8	3	2	3	56

( ) 内は硬性乳嚢腫

第64表 乳嚢腫の発生部位及性別  
金大耳鼻咽喉科 (1932—1947)

発生部位	性別		計	
	男	女		
喉頭	声帯	5	4	9
	仮声帯	1	0	1
	全般に亘るもの	5	2	7
	小計	11	6	17
咽頭	口蓋垂	12	2	14
	前口蓋弓	5	0	5
	後口蓋弓	3	1	4
	軟口蓋	3	0	3
	硬口蓋	0	1	1
	小計	23	4	27

舌及口腔	舌	1	4	5
	歯	1	2	3
	上口唇	1	0	1
	小計	3	6	9
鼻前庭食道部	鼻前庭	0	1	1
	食道	1	0	1
	部	1	0	1
	合計	39	17	56

発生部位

発生部位は第64表の如く咽頭27例で一番多く、次いで喉頭の17例、舌及口腔の9例の順であり、咽頭に於ては口蓋垂、喉頭に於ては声帯

が好発部位である。

尙お乳嚢腫56例中、硬性乳嚢腫が4例あり、うち3例は高年の男子でいずれも喉頭に、他の1例は女子で鼻前庭に発生している。この硬性乳嚢腫は臨牀的には悪性腫瘍と変りなく、又容

易に癌腫に移行するものである。

第3項 線 維 腫

総数19例で、良性腫瘍総数の9.79%に当り、患部、性、年齢別にみれば第65表の如く、男子は女子の約4倍、年齢は11~20歳に一番多く、

第65表 耳鼻咽喉科領域に於ける線維腫の患部、性、年齢別統計 (19例)

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

発生部位	喉頭		咽頭		鼻咽腔		上顎		舌		頬部		顎部		耳介		頭蓋底		年齢別線維腫総計								
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計								
0~10														1	1				0	1	1						
11~20					5	5											1	1	5	1	6						
21~30					1	1	2	2											3	0	3						
31~40	2	2									1	1							3	0	3						
41~50	1	1							2	2									3	0	3						
51~60			1	1					1	1					1	1			1	2	3						
合計	3	0	3	1	0	1	6	0	6	2	0	2	2	1	3	1	0	1	0	1	1	0	1	1	15	4	19

患部は鼻咽腔、喉頭、舌、上顎の順でその他は稀である。茲で鼻咽腔線維腫についてみるに6例共悉く男子で而も11~20歳の者が殆んどで唯1例21歳があるのみである。これを他の統計と比べてみると第66表の如くである。

即ち殆んど男子に而も若年者にみられる。このことは男子生殖機能の成熟と鼻咽腔線維腫との間に密接な関係があることを示すのではないかと思われる。

附 声帯ポリープ

声帯ポリープは線維腫であることが多いので附としてのべる。総数108例あり、性、年齢別にみると第67表の如く、男子の方稍多く、年

第66表 鼻咽腔線維腫

(各大学比較表)

	総数	男	女	年齢及例数
慶大11ヶ年	14	14	0	20歳迄8例
名大12ヶ年	10	9	1	20歳迄8例
阪大10ヶ年	21	19	2	20歳代13例 10歳迄8例
金大16ヶ年	6	6	0	20歳迄5例 21歳 1例

齡的には31~50歳に多くなつており、好発部位は第68表の如く、左側は右側の約2倍でいずれも前1/3に最も多い。名古屋医大12ヶ年間の統計では左側34例、右側20例で、いずれも前1/3に多

第67表 声帯ポリープの性、年齢別統計 (108例)

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

年 齢							計
	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	
性 別							
男	1	10	21	18	12	4	66
女	2	10	9	11	7	3	42
計	3	20	30	29	19	7	108

第68表 声帯ポリープの性、  
好発部位別統計 (108例)  
金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

性 別 占居部位		男	女	合 計	
				数	%
右	前 方	2	1	3	2.7
	前 1/3	9	8	17	15.7
	中 央	6	0	6	5.5
	後 1/3	2	2	4	3.7
側	後 方	1	0	1	0.9
	不 明	2	2	4	3.7
	小 計	22	13	35	32.4

左	前 方	5	0	5	4.6
	前 1/3	21	11	32	29.6
	中 央	2	5	7	6.4
	後 1/3	4	3	7	6.4
	後 方	0	0	0	0
	不 明	9	7	16	14.8
側	前 1/3 及 後 1/3	1	0	1	0.9
	小 計	42	26	68	62.9
両	前 1/3	1	0	1	0.9
	後 1/3	0	1	1	0.9
	不 明	1	2	3	2.7
	小 計	2	3	5	4.6
合 計		66	42	108	

くなつており、我々の統計と大体一致している。次に職業をみると、農業23、会社員及官吏22、僧侶及教師、音楽家18、商業16、労務者15となつており、僧侶、教師、音楽家がかなり多

いのは、その職業と関聯して興味あることである。尙お本統計には所謂唱者結節、小兒結節等は加えなかつたので、次に簡単にこれらの性、年齢別統計を示せば、次の如くである。

第69表 唱者結節の性、年齢別統計

年 齢 性 別	1~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	計
	男	0	0	3	2	1	0
女	1	6	4	0	2	1	14
計	1	6	7	2	3	1	20

第70表 小兒結節の性、年齢別統計

年 齢 性 別	5~10	11~15	計
	男	2	5
女	0	1	1
計	3	6	8

第4項 血 管 腫

総数15例あり、患部、性、年齢別統計は第71表の如くであり、男女略々同数、患部は舌及口腔、咽頭、鼻腔の順に少なくなつてきている。

第5項 血管線維腫

所謂出血性鼻茸であつて、総数15例あり、性、年齢別統計は第72表の如く、男子は女子よりも稍々多い。

第6項 骨 腫

例数少く僅か3例に過ぎない。尙お外耳道骨増殖が数例みられたが、本統計には加えなかつた。

第7項 脂 肪 腫

第74表の通りである。

第8項 「リガ・フェーデ」氏病

6例みられ、いずれも2歳で男女同数である。(第72表参照)

第9項 皮膚様囊腫

3例みられ第76表の通りである。

第10項 淋 巴 管 腫

3例みられ第77表の通りである。

第11項 神 經 腫

右前頭部蔓状神経腫1例みられる。(第78表参照)

第71表 耳鼻咽喉科領域に於ける血管腫の患部, 性, 年齢別統計 (15例)

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

発生臓器 性別 年齢	咽 頭			舌及口腔			外鼻及鼻腔			顎 部			耳 介			年齢別血管腫総計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0~10				1	2	3		1	1	1		1				2	3	5
11~20								1	1							0	1	1
21~30	2		2		1	1					1	1				2	2	4
31~40																		
41~50	1		1					1	1							1	1	2
51~60	1		1		1	1										1	1	2
61~70												1		1		1	0	1
合 計	4	0	4	1	4	5	0	3	3	1	1	2	1	0	1	7	8	15

第72表 血管線維腫の性, 年齢別統計 (15例)

金大耳鼻咽喉科 (1932-1947)

年 齡 性 別	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	計
	男	1	1	2	0	3	2
女	0	3	1	1	1	0	6
計	1	4	3	1	4	2	15

第73表 骨 腫

名 前	年齢	性別	職業	遺 伝	訴 主	発 生 部 位	主訴発生より初診迄	煙草	酒
岩○ス○	44	♀	農	(一)	右鼻側部腫脹	右 上 顎	4M	—	—
国○長○	47	♂	農	(一)	口内乾燥感嚙下痛	右 下 顎 角	2M	+	+
中○美○子	17	♀	無	不明	前 顎 部 腫 瘍	前 顎 部	幼少の頃より	—	—

第74表 脂 肪 腫

名 前	年齢	性別	職業	遺 伝	主 訴	発生部位	主訴発生より初診迄の期間	煙草	酒
清○栄○郎	40	♂	無	—	腫 瘤	左 頰 部	生 來	—	—
高○政○郎	63	♂	医 師	不 明	腫 瘤	右 耳 介	5M	—	—
内○善○	61	♂	商	—	腫 瘤	右耳後部	2T	—	—

第75表 「リガ・フェーデ」氏病

名 前	年齢	性別	職 業	遺 伝	主 訴	発生部位	局所状態	主訴発生より初診迄
五○嵐○吉	2	♂	教員族	—	腫 眼	舌下面	拇指頭大	2M
割○貞○	2	♀	建具商	—	舌 腫 瘤 形 成	舌表面	拇指頭大	2M
野○和○	2	♀	質 業	—	舌下面の厚い苔	舌下面	小指頭大	生來
竹○修○	2	♂	農	不明	舌 下 部 腫 脹	舌下面	小指頭大	1W
北 ○進	2	♂	農	不明	舌下部の腫瘤形成	舌下面	豌豆大	4.5M
佐○篤○	2	♀	農	—	腫 瘤	舌下面	拇指頭大	2M

第76表 皮膚様嚢腫

名 前	年齢	性別	職 業	遺 伝	主 訴	発 生 部 位	局所状態	主訴発生より初診迄	煙草	酒
山○き○	40	♀	会社員	不明	口 腔 底 腫 脹	口 腔 底	示指頭大	3J	—	—
畑○チ○コ	3	♀	農	不明	口 腔 底 腫 脹 言 語 障 碍	口 腔 底	拇指頭大	1J	—	—
府○清○	8	♂	無	(—)	排 膿	右外耳道入口部	豌豆大	生來	—	—

第77表 淋 巴 管 腫

名 前	年齢	性別	職 業	遺 伝	主 訴	発生部位	局 所 状 態	主訴発生より初診迄	煙草	酒
福○つ○	60	♀	無	癌(+)	舌背腫脹	舌 尖	豌豆大	5J	—	—
野○公○	9	♀	教員族	無	異常な舌苔	舌 表 面	半米粒大多数	3J	—	—
田○ち○子	14	♀	漁 業	不 明	右頰部腫脹	右 頰 部	瀰漫性腫脹	生來	—	—

第78表 神 經 腫

名 前	年齢	性別	職 業	遺 伝	主 訴	発生部位	局所状態	主訴発生より初診迄	煙草	酒
加○後○	27	♂	無	—	右眼上部腫脹	右前頭部	蔓状腫脹		卅	卅

第4篇 結 論

1. 本統計的観察は金沢大学医学部耳鼻咽喉科臨牀に於て昭和7年1月より昭和22年末(1932—1947)に至る16ヶ年間に取扱つた患者総数41258人中に於ける腫瘍患者533例について行つたものである。そのうち悪性腫瘍は339例、良性腫瘍は194例である。

2. 悪性腫瘍中、癌腫296例、肉腫16例、内被細胞腫14例、悪性淋巴腫13例で、癌腫は悪性腫

瘍総数の87.31%を占めておる。男女の比は癌腫は4:1、肉腫は2:1であるが、内被細胞腫及悪性淋巴腫は男女略々同数である。

3. 癌腫を患部別にみると、上顎癌30.4%、喉頭癌29.7%、即ち略々同数で癌腫の夫々1/2を占めている。男子では喉頭癌、女子では上顎癌が一番多い。食道癌は第3位である。次いで舌癌、咽頭及扁桃腺癌、口腔癌等の順である。

4. これは全身臓器の癌腫発生頻度と大体一致している。唯食道癌が第1位を占めている点異なるが、これは食道癌患者が耳鼻咽喉科のみならず内科、外科をも訪れるためと思われる。

5. 食道癌の占居部位は上部1/3が第1位になつてゐるが、諸家の剖検統計では下部或は中部1/3が第1位である。この差は耳鼻咽喉科を訪れる食道癌患者は比較的食道上部癌が多いためと思われる。

6. 癌腫と年齢との関係をみるに、51~60歳が最高罹患率を示している。然し女子に於ては、40歳代、50歳代及60歳代は共に略々同率である。

7. 癌腫は凡ゆる職業の者にみられる。又喉頭癌患者では、僧侶、弁護士等人一倍声帯を使用する者に多くみられた。

8. 癌腫患者で飲酒家、喫煙家の最も多くみられたのは、喉頭癌患者である。次いで食道癌

患者。舌癌患者である。

9. 癌腫の遺伝負荷率は6.6%で従來の文献による癌の負荷率の下位を占めている。

10. 良性腫瘍194例中、甲状腺腫一番多く70例、次いで乳嚢腫56例、線維腫19例、血管腫及血管線維腫各15例、「リガフェーデ」氏病6例、骨腫、脂肪腫、皮膚様嚢腫、淋巴管腫各3例、神経腫1例である。

11. 甲状腺腫は殆んど女子に占められ、而も思春期と更年期の者に多い。

12. 鼻咽腔線維腫6例は全部男子で、而も青春期の者に多い。

13. 声帯「ポリープ」の好発部位は左側声帯で右側の約2倍で、而もいずれも前1/3に最も多い。

14. 本統計的観察の結果は従來の文献にみられた諸氏の統計の結果と略々一致している。

稿を終るに臨み終始御懇篤な御指導と御校閲の労を辱うした恩師松田教授に深甚な謝意を表す。

## 参 考 文 献

- 1) Denker u. Albrecht : Lehrbuch d. Krh. des Ohres u. der Luftwege.
- 2) Max Borst : Die Lehre von den Geschwülsten.
- 3) 藤野二雄 : 耳鼻咽喉科領域に於ける腫瘍の臨床統計的研究。耳鼻臨床, 第31巻, 第5号。
- 4) 安積忠雄・河村章一 : 名古屋医科大学耳鼻咽喉科学教室最近十二ヶ年間に於ける上気道腫瘍の統計的観察。大日本耳鼻, 第45巻, 第9号。
- 5) 土井傳 : 我教室最近十ヶ年間に於ける口腔腫瘍, 副鼻腔腫瘍, 喉頭腫瘍, 食道腫瘍の統計的観察。大日本耳鼻, 第49巻, 第6号。
- 6) 林天賜・劉守壕 : 台北山下臨床に於ける耳鼻咽喉科領域の悪性腫瘍。
- 7) 長與又郎 : 癌, 第27巻, 第3号。第27巻, 特別号。
- 8) 山本宗路 : 上顎癌の臨床的観察特に予後との関係。大

- 日本耳鼻, 第49巻, 第11号。
- 9) 宮原林 : 最近二ヶ年間の我が教室に於ける腫瘍の統計的観察。大日本耳鼻, 第42巻, 第6号。
- 10) 鈴木甚二郎 : 我科臨床最近十年間の上気道癌の統計的観察。大日本耳鼻, 第36巻, 第11号。
- 11) 古閑忠夫・飯沼幾三 : 星野臨床過去拾ヶ年に於ける食道癌の統計的研究。耳鼻臨床, 第33巻, 第5号。
- 12) 小野謙 : 食道癌の臨床及直達鏡的観察。耳鼻咽喉, 第9巻, 第6号。
- 13) 飯田弘道 : 我が臨床最近10ヶ年間に於ける上顎癌の統計的観察。耳鼻臨床, 第40巻, 2~6号。
- 14) 廣戸健一郎 : 我教室既往19年間に於ける上顎悪性腫瘍の統計的観察。耳鼻臨床, 第40巻, 第2~6号。